



こーひーぶれいく

投稿

田中俊一氏特別インタビュー ーを読んで

飯沼 武

Inuma Takeshi

1. はじめに

筆者は日本アイソトープ協会とは長いお付き合いで放射線医学総合研究所の現役時代には各種の委員会に所属し活動しました。そして現在は特別会員を拝命しております。

実はこのたび、本誌2019年2月号に掲載された前原子力規制委員会委員長長の田中俊一氏の特別インタビューを読んで、その率直なご発言に感動しました。本稿ではその印象記を書かせていただくと共に、田中氏とのメールの交換についても触れてみたいと思います。

2. 田中氏の特別インタビューの印象

田中氏のインタビューについて、筆者の独断による印象を述べさせていただきます。

まず、田中氏は2017年9月に原子力規制委員会の委員長を退任後、飯館村に居を構え、茨城県勝田のご自宅と半々くらいの生活をされ、住民の復興を支援されています。1つはCsで汚染した土壌の入ったフレコンバッグを地中に埋めて新しい畑を作ること、2つは子供たちへの放射線教育です。人に対する風評被害もあるようです。本当に頑張っておられますね。第二の話題は田中氏が原子力規制委員会の委員長を引き受けるように打診されたときの経緯です。これはたいへんな仕事で誰もやるという人がいなくて仕方なく引き受けたそうです。ただ、ほかの委員の方は更田先生を除き、知らない方ばかりでしたが、皆よい方で多くの仕事ができたとっておられます。筆者は原子力規制委員であった中村佳代子先生をよく存じ上げておりましたので、規制委員会には注目していましたが、そのお仕事が大変

だったことは今回のインタビューの記事で初めて知りました。

第三の話題は田中氏が強く主張されている放射線防護の規制の基準の不合理性です。特に食品摂取基準が100 Bq/kg はあまりにも低すぎるという議論にはまったく賛成です。第四の話題は放射性同位元素のことですが、モリブデンの製造に問題があるようです。これは核医学分野で多く利用する放射性同位元素^{99m}Tcと関係が深いので心配です。

全体をとおして、田中氏のお話は非常に淡々としており、感動しました。益々のご活躍を心からお祈りしております。

3. 筆者の感想

田中氏のインタビュー記事を読み、その後メールでのやりとりをさせていただきましたので、そのことも含めて筆者の感想を述べさせていただきます。

まず、田中氏が福島復興に尽力されていることに驚きました。田中氏とのメールの交換で知ったのですが、筆者の1960年代の¹³⁷Csの研究論文を知っておられ、それを使って食品中のCsのことをお話しされているそうです。筆者の名前を知っていると云われ、驚いた次第です。

次に、これからの放射線防護の規制基準を見直すことが必要だと思えます。100 Bq/kg という数字をEU並みの1,000 Bq/kgに引き上げるべきでしょう。これによって福島の風評被害が減る効果も期待されます。

最後に、筆者の主張を述べさせていただきます。福島事故後の日本人の放射線恐怖症の原因は放射線によるリスクが0まで直線的に存在するという直線閾値なし仮説(LNT)であると考えております。この問題に関しては、残念ながら、専門家の間でも意見の一致がなく、このことが国民に大きな不安を与えていると考えられます。筆者は放射線を最も多く利用している放射線医学や核医学の専門学会で低線量放射線の健康影響について議論することを提案しております。幸い本年の日本核医学会総会において、LNT仮説に関するシンポジウムを企画されているというお話を聞いておりますので、第一歩が始まったと思えます。これから長い時間がかかるでしょうが、どうしてもやらなければなりません。

本書の読者は放射線の専門家でありますので是非、活発な議論をお願いします。

(量放射線医学総合研究所名誉研究員(医学物理士))